

## 1 小学校社会科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

### (1) 言語活動の充実について

- ① 効果について
  - ・ 教師が説明する授業（教師の言語活動）の減少
  - ・ 子どもが主体的に学習する授業の増加
  - ・ 子どもが「話す」「聞く」「読む」「書く」活動をする授業、「説明する」「資料を読み取って解説する」「自分の考えを自分の言葉で発表する」授業の増加
- ② 課題について
  - ・ 問いと対立軸が不明確であったり、視点が増えてしまったりすることが原因で、内容が拡散する話合いとなる。
  - ・ 目標に内容が書かれていないことが原因で、目的が不明確な話合いとなる。  
（「何について」「どのように」という視点がないケースがある。）
  - ・ 教材研究の不足等によって、具体的な事実が伴わないことが原因で、言語の一人歩きとなる。  
… 工夫・努力は考えて導き出されるものであり、学習問題で「工夫・努力を調べよう」と設定してしまうと、見てきたこと・調べたことが全部工夫・努力になってしまう。
- ③ 話型について
  - ・ 話型を使う目的を確認する。  
⇒ 根拠を伝えたり、考えたことを伝えたりすることの習慣化が目的である。  
説明はできるが、相手とのやり取りにはならない。
  - ・ 話型を離れて自分の言葉で話せるような話合い、児童が自分の言葉を取り戻せるような話合いにしていくことを意識する。

### (2) 学習指導要領の読取方等について

- ① 単元について
  - ・ 単元とは「内容・学習経験のまとまり」（昭和 33 年度学習指導要領参照）
  - ・ 問題解決の一連の流れを、教師が工夫して構成するもの。
  - ・ 単元のイメージを持つために、学習指導要領を丁寧に読むことが必要。
- ② 構造図について
  - ・ 構造図は、子どもが見通しを持つために大切。
  - ・ どの構造図でも、柱は学習指導要領。（学習指導要領では、無限にある社会的事象から学ぶ範囲の枠組みを示していることを押さえる。）
- ③ 内容について
  - ・ 内容では、「考えるようにすること」を番号で、「考える手掛かり（調べる対象）」はア～ウで示している。「調べる対象を手掛かりとして、～を考えるようにする」（アを手掛かりに（1）を考えるようにする）という構造になっている。
  - ・ 調べる事実は、教師が考えて設定する（学習指導要領に規定がない）。
  - ・ 内容のア～ウを見て教材を考える。教材とは、子どもと学習内容をつなぐ素材群。教材を目に見える形に具体化したものが資料。
  - ・ 事例を通して社会的事象を見る。事例を通して社会的事象の意味を考える。見えるものをしっかり調べて、見えないものを解釈して考える。
  - ・ 体験、調査、資料活用を通して、「それらが何のために行われて」「それに関わる人にどんな願いがあるのか」「どんな願いが実現されているのか」という事実をつかませ、得られた解釈する手掛かりを基に、具体的な言葉を自分で獲得して解釈させるようにする。

2 目標と評価規準について

- ・ 目標は、一時間や一単元で実現するものではなく、複数の内容と単元の学習を踏まえて達成されるものである。そのため、目標に向かうということを常に意識する必要がある。
- ・ 目標に向けて評価規準を作成することで、内容と学習活動の全体イメージが見え、単元の全体像を把握できるようになる。

3 授業づくりについて

(1) 問題解決的な学習について

- ・ 問題解決的な学習を充実するという軸を大切にすることが、「習得」「活用」「探究」「言語活動の充実」「考える学習」「思考力・判断力・表現力等の育成」「主体的な学習」等の重要な要素を身に付けさせることにつながる。
- ・ 問題解決的な学習の形は一定（一つ）ではない。子どもが学習の問題を設定しながら、それを解決していく過程で、理解したり、考えを深めたりしていく学習である。
- ・ 話し合いが拡散したり、交通整理ができなかったりするの、子どもの問いがないのに学習問題が設定されている場合や学習のまとめが学習問題への振り返りになっていない場合である。

(2) 授業づくりについて

① 1時間の授業について

- ・ 1時間の授業モデルを作る。⇒ 授業モデルを持ってない教師が多い。
- ・ 1時間のイメージを持ったら、次は単元のイメージを持つ。
- ・ 1時間の授業イメージを作ることを大切に、研究を進める必要がある。若手の先生の授業づくりを支えていく視点にもなる。

② 板書計画について

- ・ 板書計画による授業の振り返りを丁寧に行う必要がある。
- ・ 板書計画は、授業の意義を伝えるもの、流れを伝えるものである。教師の発問、子どもの反応、課題が見えるものであると良い。
- ・ 板書計画に対しては、自分流のスタイルで記録を取っていく。「発問と指示、資料提示が良かったか」「子どもの話し合っている内容やまとめが本時の評価につながっているか」「目標の実現につながっているか」等を確認する。

<板書計画例>

